



教学 IR レター vol. 2

群馬大学 大学教育・学生支援機構

教育改革推進室 二宮 祐・幾田 英夫

(内線：7521)

2019年12月発行(第2号)

はじめに

このたび『教学 IR レター』Vol.2 を発行することとなりました。

教育改革推進室では教学 IR、FD に関することを主要な業務としています。

今年度の FD として、各学部・学科を巡回いたしました。教員の皆さまにおかれましてはお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。

令和元年度FD教育の開催状況

| 学部等 | 日時 | 参加者数 |
|---------|----------|-------|
| 教育学部 | 9月18日(水) | 約80名 |
| 社会情報学部 | 9月25日(水) | 約25名 |
| 医学部医学科 | 8月27日(火) | 約125名 |
| 医学部保健学科 | 7月31日(水) | 約75名 |
| 生体調節研究所 | 9月10日(火) | 約25名 |
| 理工学部 | 9月13日(金) | 約110名 |
| 教養教育 | 9月24日(火) | 約60名 |

FD教育の概要

FDとはファカルティ・ディベロップメントのことで、教員の(教育)能力向上活動のこととされています。現在、大学ではFDが義務化され、大学評価にも関わる重要項目とされています。各大学は継続的に教員のFDに取り組むように要請されています。

今回は、各学部・学科でのFDの概要について報告いたします。(生体調節研究所におきましては、

アクティブラーニングが主たる内容でした)。

- ・シラバスの適切な入力
- ・学習時間の問題
- ・厳格な成績評価
- ・GPA
- ・ポートフォリオ
- ・アクティブラーニングは難しくない

1. シラバスの適切な入力

本学の学生は教務システムからシラバスを閲覧し、履修や学習に利用する体制がとられています。ただ現時点では、あまり利用されているとは言えない状況のようです。

そこでシラバスには「この授業を履修するとどのようなことが身に付くのか」わかるような文章の入力をお願いします。

具体的には

- ・何ができるようになるのか到達目標
- ・授業形式の詳細や、授業時間外学習の内容
- ・成績の際に考慮される要素と評価割合などを記載してください。

2. 学習時間の問題

本学のみならず、日本の大学生は学習時間が少ないと指摘されています。

大学設置基準では1日あたりの学習時間が、授業と授業時間外時間をあわせて8時間になるように制度設計されています。しかしながら、この時間を満たしていない場合もあるようです。

そこで、宿題について明確に案内を出していただければと思います。

(ウラもぜひご覧ください。)

3. 厳格な成績評価

教員の皆さまにおかれましては、それぞれの理念に基づいて教育され、自ら設定した到達度に基づいて成績をつけられていることと思います。

ただ一部の科目におきましては、成績評価に偏りが生じているものがあります。

成績評価の考え方には相対評価や到達度評価などいろいろありますが、あまりに偏った成績評価は到達度の設定に関して改善点があることを意味しています。

たとえば、北海道大学では6人以上履修している全科目について成績分布を公表しています。ぜひ参考までにご覧ください(注1)。北海道大学では科目のGPAを平準化するべく、第三者によるチェックが入る体制になっています。この成績評価の通用性を高める策として、学内の教員以外の第三者の参画を求める仕組みを検討することは、中央教育審議会答申でも提案されています(注2)。

4. GPA

GPAを高くするために、努力することなく良い生成績評価を得られやすい授業(学生の言葉では「楽単」といいます)を履修する傾向があったり、GPAの計算の際に用いる数値が低く設定されているために留学時に不利になったりするという問題もあります。

GPAの適正化については今後も検討を要することです。

5. ポートフォリオ

ポートフォリオは学生が自ら「振り返り」、「省察」に使うことが目的です。学生は大学入学前の高校段階においてポートフォリオに親しんでいます。

ポートフォリオは教員の皆さまが学生に対して評価や助言を行うものではありません。他方、学生のポートフォリオの利用についての動機を高めるために、簡単なフィードバックをお願いしています。

6. アクティブラーニングは難しくない

アクティブラーニングはそれほど難しく考える

必要はありません。重要なのは学生を「外化」(注3) 促すことであり、言い換えれば「聴く」以外のことをさせることです。たとえば

・授業を聴きながら「!」(面白い)、「?」(疑問反論)をメモさせて、あとで隣の受講生と! ?についてコメントしあう。

・教科書の一部を学生に読ませる

・グループワークさせる

・ミニツツペーパーを書く時間を設けて、教員がフィードバックする

など簡単にできる方法もいろいろあります。

さて、これを読んでいただいた方々、「!」「?」はございましたでしょうか?

教育改革推進室では、教員の皆さまを対象とする授業コンサルティングを行っています。授業の改善、より進んだアクティブ・ラーニングの導入、Moodleの利用、ルーブリックの活用などのご希望がありましたら、ご連絡ください。

注1 北海道大学成績分布WEB公開システム

<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/seiseki/GradeDistSerch.aspx>

注2 中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日) p.27

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf

注3 「外化」の定義については、教育心理学者溝上慎一の下記のウェブサイトをご覧ください。

[http://smizok.net/education/subpages/aglo_00011\(naika_gaika\).html](http://smizok.net/education/subpages/aglo_00011(naika_gaika).html)